

開催日時：2002年8月23日(金) 14:30~18:15

場所：ぱ・る・るプラザ京都 6階会議室 D

参加者数：委員6名 河川管理者15名 委員傍聴者1名

検討内容および決定事項

意見交換

これまでに収集した水位管理に関するデータや資料について、主に下記の意見が出された。

洗堰による水位操作について

- ・ 下流への影響を考慮した場合、砂州の水位低下速度に影響を与える堰の閉め方に配慮が必要。
- ・ 琵琶湖の水位を考慮した場合、6月15日に必ず-20cmにするとということに問題がある。固定的な運用を変えることを検討する時期に来ているのではないか。また、急激に水位を下げることの影響を考えるべき。
- ・ 浜欠けについては、水位が低い方が好ましいことは事実であるが、水位操作が与えている影響は少ないと考えられる。
- ・ 琵琶湖と淀川で相反する事項が出てくる。それを検討する必要がある。
- ・ 洗堰の影響で下流に本来の水量が流れていないのであれば、下流の生態のために水を流す操作が有り得るのか検討すべき。

水位操作全般について

- ・ 生物にとって水位の急低下は問題があると感じる。水位上昇にはある程度耐えられる。
- ・ 産卵期など生物にとってクリティカルな時期をどうクリアするか、という視点で考えるべき。
- ・ 何らかの変更を行った場合、その影響をモニタリングし、フィードバックする仕組みが必要。
- ・ 例えば琵琶湖では水位操作に加えて湖岸堤の整備による水辺移行帯の喪失など他の要因も重なって生物に大きな影響を与えている。要因を仕分けする必要がある。
- ・ 目標をどこに置くのか、を検討する必要がある。

委員からの情報提供

西野委員より資料2-1「琵琶湖の水位低下と生物」、資料2-2「水位操作規則変更が琵琶湖の生態系、とくに魚類および底生動物に与えた影響について」について説明が行われた。

河川管理者からの情報提供

河川管理者より、以下の事項について説明および資料提供が行われた。

高浜(樟葉)地点の日水位、琵琶湖水位、洗堰放流量の経年変化のH4前後での比較/瀬田川流下能力の変遷と琵琶湖水位について/淀川の生態系の豊かな地域の航空写真と横断面図/洗堰操作規則(規則を変更する際の手続き)/ダム貯水池における選択(表面)取水設備の効果について/ヨシ刈りの実態とその是非について/近畿地方整備局管内ダム貯水状況

次回以降のスケジュール

- ・ 第14回委員会(9/12開催)に水位管理WGのメモを提出する必要がある。メーリングリストを通じて意見交換を行い、最終的にリーダーがとりまとめる。
- ・ 次回WGは第14回委員会後に実施する。開催日については調整を行った上で決定する。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。